

愛知学院大学歯学部倫理委員会

平成 27 年度第 4 回会議 次第

平成 28 年 2 月 4 日（木） 15 : 00～

I. 報 告

1. 平成 27 年度第 3 回倫理委員会議事録（案）（平成 27 年 10 月 1 日）
2. 再提出状況および委員長決裁について
3. その他
 - 1) 平成 28 年度 倫理委員会開催予定日について
 - 2) 附属病院における研究協力同意取得（包括的同意）について

II. 協 議

1. 申請書類審議（事前送付資料参照）
2. 申請者との面談
3. 判定結果の決定
4. その他
 - 1) 研究等終了報告書について

平成27年度愛知学院大学歯学部倫理委員会委員名簿

◎委員長 ○副委員長

	氏名	所属等	委員区分(選出母体)	任期
	本田 雅規	口腔解剖学講座教授	規程第4条(1)基礎系講座専任教員	27.4.1-29.3.31
	池田 やよい	解剖学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
	戸 莉 彰 史	薬理学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
○	前田 初彦	口腔病理学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
◎	千田 彰	保存修復学講座教授	規程第4条(2)臨床系講座専任教員	26.4.1-28.3.31
	武部 純	有床義歯学講座教授	〃	27.4.1-29.3.31
	原田 純	麻酔学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
	松原 達昭	内科学講座教授	〃	26.4.1-28.3.31
	高木 敬一	愛知学院大学法学部教授	規程第4条(3)学識経験者	27.4.1-29.3.31
	黒神 聰	元愛知学院大学法学部教授	〃	27.4.1-29.3.31
	柿田 憲広	金城学院大学非常勤講師	規程第4条(4)一般人	27.4.1-29.3.31
	鏡山 典子	愛知教育大学人事労務課長	〃	27.4.1-29.3.31

平成27年度 第4回歯学部倫理委員会
インターネット公表一覧

1	実施責任者	有地 榮一郎
	研究課題	咀嚼筋痛患者に対する理学療法の超音波診断法による評価
	概要	<p>顎関節症患者に対しプリント療法、薬物療法、理学療法等が行われある程度の治療効果が得られている。一般的に、筋痛に対する理学療法としてマッサージ療法、電気刺激療法、温熱療法、テーピング療法等がある。我々は咀嚼筋痛を伴う顎関節症者に対し、オーラル・リハビリテーションロボットを用いて咬筋、側頭筋のマッサージ治療を行って良好な結果を得ている。治療効果を評価する方法として、VAS(visual analog scale)による痛み、開口のしやすさ、生活支障の程度とともに超音波elastographyを施行し咬筋の厚さ・内部性状・硬度を評価している。</p> <p>本研究の目的は、咀嚼筋痛を有する顎関節症患者に対し、①マッサージ療法以外の理学療法が咀嚼筋痛に有効かどうか、②超音波elastographyにより咬筋の厚さ・内部性状・硬度がどのように変化するか検証し、更なる治療体系の発展を目指すものである。具体的には、理学療法である「テーピング療法」が咀嚼筋痛に対し有効かどうかVASを用い経時的に評価し、超音波elastographyで咬筋がどのように変化するか分析する。併せて、筋マッサージとの相乗効果、テーピング療法の為害事象についても検討する。</p>
2	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可
3	実施責任者	栗田 賢一
	研究課題	唇顎口蓋裂患者に対する形態および機能変化に関する検討
	概要	<p><目的> 唇顎口蓋裂患者の治療では、発育途中の乳幼児に形成手術が施行されるため、顎顔面劣成長による形態異常、咬合不全による咀嚼障害および、呼気鼻漏出、鼻咽腔閉鎖不全による言語障害を後遺することが多い。</p> <p>当科では、この問題点を回避するために、二段階口蓋形成法を行っている。すなわち、粘膜弁法による軟口蓋被裂部の閉鎖を行い、硬口蓋部の裂に対して、同部に硬口蓋閉鎖床を使用している。これにより、上顎の劣成長の要因となり得る硬口蓋被裂部閉鎖を行っている。</p> <p>一般的には唇顎口蓋裂患者における、顎顔面発育（上顎劣成長）と言語評価に関して指摘されている。それらに対し、顎顔面発育を把握するためX線画像を用いた経年的評価、また、患者の言語成績に関して評価を行うことで、当科における二段階口蓋形成術施行した患者における治療成績を検討することを目的とする。</p> <p><方法> 顎顔面頭蓋発育に関しては、1983年1月以降当科初診受診された唇顎口蓋裂患者の病状確認、経過確認のため治療の際に撮影した側方頭部X線規格写真等を用いて後ろ向き研究にて検討する。</p> <p>言語成績に関しては、具体的には、鼻咽腔閉鎖機能、開鼻声の残存等を評価し検討する。</p> <p><予想される結果> 当科における、二段階口蓋形成法では生後18～24か月に軟口蓋閉鎖のみを粘膜弁法にて施行する。そのためpush back法のように骨膜剥離なく、硬口蓋にも侵襲を与えないため、上顎の顎発育に対する影響は少ないと考えられる。言語成績に関しても、硬口蓋裂部に対して、硬口蓋閉鎖床を装着しているため正常言語の発育が期待できると考えられる。また、上顎劣成長、歯列不正、萌出異常が改善されることで、言語障害も改善されると考える。</p>
4	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可
	実施責任者	福田 理
	研究課題	小児期における口腔清掃状況とデンタルフロスの使用状況および保護者との関連性に関する研究

平成27年度 第4回歯学部倫理委員会
インターネット公表一覧

5	概要	<p>近年、小児の齲蝕は減少傾向にある。6年ごとに調査・発表されている歯科疾患実態調査によると、フッ化物塗布の経験者の割合は少しずつ上昇している。また歯ブラシの使用状況は、1日1回みがく者は減少し、2回、3回みがく者は増加傾向を示している。これらより、小児期の齲蝕予防に対する意識は年々高まっていると推察される。</p> <p>一方、小児の齲蝕の好発部位の一つに臼歯部隣接面が挙げられる。その齲蝕予防にはデンタルフロス（以下「フロス」とする）が効果的であるが、小児期のフロスの使用状況についての報告は少ない。</p> <p>本研究は小児の口腔健康増進のための支援方法を考察し、小児期のフロスの適切な使用開始時期と指導方法を検討するための基礎的資料を得ることを目的として、小児および保護者のフロスの使用状況を調査、検討することで、小児歯科診療におけるフロス使用の啓発、指導をより有意義にすることを狙いとしている。</p>
6	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可
7	実施責任者	盛口 敬一
	研究課題	ヒト白血球フリーラジカル生成に関する顆粒動態
	概要	公表不可
8	実施責任者	盛口 敬一
	研究課題	歯周病患者の歯肉におけるフリーラジカル生成局在
	概要	公表不可
9	実施責任者	泉 雅浩
	研究課題	変形性顎関節症者のCT画像所見に関する後向き研究
	概要	<p>2014年、顎関節症の世界的な診断基準として DC/TMD(Diagnostic Criteria for Temporomandibular Disorder)が発表された。日本顎関節学会においてもこの基準に沿った診断法を確立するために積極的な活動を行っている。DC/TMDにおいて、変形性顎関節症の診断にはCTとMRIによる画像診断が重要であり、確定診断に用いる画像所見は従来のerosion, osteophyteに加え、subchondral cystとgeneralized sclerosisが新たに追加された。ところが、subchondral cystとgeneralized sclerosisに関しては十分な研究報告が認められない。つまり、DC/TMDによる変形性顎関節症の確定診断には画像検査が不可欠であるにもかかわらず、特徴的画像所見の定義や有効性が明確にされていないのが現状である。</p> <p>本研究では、変形性顎関節症のCT所見をretrospectiveに分析し、subchondral cystとgeneralized sclerosisの画像所見を明らかにするとともに、変形性顎関節症の診断に有効かどうか検討する。</p>
10	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可
11	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可
12	実施責任者	公表不可
	研究課題	公表不可
	概要	公表不可
13	実施責任者	嶋崎 義浩
	研究課題	後期高齢者の口腔と全身の健康状態の関連に関する研究
	概要	公表不可
14	実施責任者	佐久間 重光
	研究課題	CAD/CAM冠に関する臨床的調査
	概要	公表不可

平成27年度 第4回歯学部倫理委員会
インターネット公表一覧

15	実施責任者	三谷 章雄
	研究課題	三重県歯科衛生士会会員の喫煙状況調査
	概要	<p>日本歯科衛生士会は、2006年に禁煙推進宣言を提言し、6項目中の第2項に、歯科衛生士学生に対するタバコと健康の関連についての啓発強化があげられており、歯科衛生士の今後の禁煙支援活動において、現場の歯科衛生士や将来の歯科衛生士をめざす学生への禁煙教育は大変重要視されている。しかし、当該分野における歯科衛生士の喫煙状況や受動喫煙の実態などに関する研究は、我々が検索する限りでは、ほとんどないのが実情である。そこで、三重県歯科衛生士会の歯科衛生士の喫煙状況や受動喫煙の実態を明らかにするために本研究を行う。</p> <p>すなわち、喫煙の有無、家族・同居人の喫煙状況および心理的ニコチン依存度について調査する。なお、本研究で適用する心理的ニコチン依存度を評価する加濃式社会的ニコチン依存度質問票（The Kano Test for Social Nicotine Dependence、KTSND）は、喫煙者・非喫煙者の心理的依存（社会的な刷り込みなどによる誤った認識）を評価する質問票である。KTSNDの質問票には、喫煙歴、家族・同居人の喫煙状況が確認できるようになっている。KTSNDは、10問の設問からなり、30満点（規準範囲：9点以下）で、喫煙に対する誤った思い込み（認知の歪み）のうち、「効用の過大評価（正当化・害の否定）」と「嗜好・文化性の主張（美化・合理化）」が簡便（約5分で回答可能）かつ客観的に評価できる。</p>
16	実施責任者	渡邊 哲
	研究課題	精神科病院における窒息、肺炎の発症率についての検討
	概要	公表不可
17	実施責任者	菱川 敏光
	研究課題	近赤外分光法（NIRS）を用いた覚醒時ブラキシズム診断法の構築
	概要	公表不可
18	実施責任者	本田 雅規
	研究課題	ヒト乳歯歯髓由来歯髓幹細胞を用いた骨再生療法の確立に向けた基盤研究
	概要	公表不可
19	実施責任者	本田 雅規
	研究課題	ヒト歯髓幹細胞の免疫調節作用を応用した治療法の開発のための基盤研究
	概要	公表不可